

令和6年度

事業報告書



1 救護活動

P3

2 國際活動

P7

3 医療事業

P8

4 看護師養成事業

P10

5 血液事業

P11

6 救急法等の講習

P12

7 赤十字ボランティア

P15

8 青少年赤十字 (JRC)

P16

9 広報活動

P17

10 会員の加入促進と活動資金の募集

P18

11 令和6年度一般会計歳入歳出決算概算書

P20

岡山県支部 令和6年度 重点項目

災害救護体制の整備

救護班要員をより効果的に育成するため、指導スタッフを任命し、体制の充実を図りました。

また、救護班要員研修では、全社で標準化された研修プログラムのeラーニングを活用し、研修の効率化を図りました。

さらに、昨年度に引き続き、内閣府主催の「避難生活支援リーダー／サポーター研修」に参加し、赤十字ボランティアの育成にも努めました。



防災・減災の知識・技術の普及促進

県内の各地域や団体から寄せられる「赤十字防災セミナー」の要望に応えるため、「指導者養成研修」を実施し、新たに21名の指導者を養成しました。

また、親子を対象とした「防災デイキャンプ」を実施し、防災や水辺の安全について、クイズや着衣泳などで楽しく学んでもらいました。

さらに、岡山県主催の「大学生災害ボランティア研修会」と連携し、若年層に対しても防災・減災の知識・技術の普及を図りました。



地域包括ケアの推進

赤十字が持つリソースを活用し地域づくりに貢献するため「地域づくり応援作業部会」を設置し、県内全ての赤十字施設の連携強化に努めました。

また、岡山シーガルズとタイアップし、県内の高校生とともに、老人保健施設の利用者や地域の方を対象にフレイル予防イベントを開催しました。



救護活動

日本赤十字社が行う救護活動は、赤十字の使命に基づいて行っており、医療救護やこころのケア、救援物資の配分、血液製剤の供給、義援金の受付など多岐にわたります。

また、災害救助法や災害対策基本法、国民保護法においては指定公共機関として、国や地方公共団体へ協力することも明記されています。

近い将来に発生が予測されている国難級の大規模地震や気象災害の頻発化など、来たるべき未曾有の人道危機に対応できるよう、平時から備えています。

令和6年度は、岡山県支部が救護班を派遣した災害等はありませんでした。

○救護班の編成等

災害時、ただちに被災地へ出動し被災者への救護活動が行えるよう、常備救護班9個班（岡山赤十字病院8個班、岡山赤十字玉野病院1個班）を編成するとともに、災害対策本部要員・DMAT 登録者・薬剤師・血液搬送要員等を任命し、「岡山県支部救護業務計画」に基づく体制を整備しました。

また、災害時における医療ニーズを把握し、関係機関と救護班の活動調整等を行う日赤災害医療コーディネートチームを3チーム編成しました。

救護員の任命状況（人）

	日本赤十字社 岡山県支部	岡山赤十字病院	岡山赤十字 玉野病院	岡山県赤十字 血液センター
		8個班	1個班	
常備 救護班	医師	8	1	
	看護師長	8	1	
	看護師	16	2	
	主事	16	2	
災害対策本部要員	14	11		8
DMAT 登録者	6	31	1	
薬剤師		8		
血液搬送要員				2
日赤災害医療 コーディネーター		2		
日赤災害医療 コーディネートスタッフ	3	7		

●救護員の研修・訓練

新たな救護員育成体系に基づく標準化された研修を実施することで、救護員のさらなる質の向上と新規要員確保を図るとともに、他機関との訓練にも積極的に参加し、連携を強化しました。

研修・訓練名	実施日	内容
岡山県水害対応訓練 (支部災害対策本部訓練)	令和6年5月30日	災害対策本部の設置演習
救護班要員研修Ⅰ	令和6年7月7日	避難所での救護活動、災害診療記録、避難所活動机上シミュレーション等
こころのケア研修	令和6年7月28日	概論、被災者へのこころのケア、こころのケア実践等
救護員訓練	令和6年10月12日	広域災害救急医療情報システム(EMIS)、出発式、避難所での診療等
第5ブロック合同災害救護訓練	令和6年11月8~9日	災害対策本部の設置演習、救援物資の配分手配等
岡山県総合防災訓練	令和6年11月16日	避難所での診療及び避難所環境改善アクセスメント訓練
救護員研修(応用)	令和6年12月14日	薬剤師の活動、保健師の活動についての講義
災害対策本部要員研修	令和7年1月14日	本部運営の概論、時系列活動記録実習等
岡山県地震対応訓練	令和7年1月21日	災害対策本部の設置演習
全国赤十字救護班研修会	令和7年2月22~23日	救護員の心構え、時系列活動記録実習、病院支援演習等



●被災者の支援（救援物資等）

県下での火災等による罹災者に対し、地区分区を通じて救援物資及び弔慰金をお渡しました。

救援物資等配分の内訳

種類	交付基準	配分数
毛布	1人につき1枚	94枚
緊急セット	原則1世帯（4人分）につき1セット	50セット
バスタオル	1人につき1枚	86枚
弔慰金	死亡者1人につき20,000円	260,000円 (13人)

罹災世帯数等

区分	世帯数(世帯)
全焼	41
半焼	5
避難	0
その他	7
計	53

●義援金・救援金の受付

令和6年度における受付状況は以下のとおりです。

義援金受付状況

名称	件数（件）	金額(円)
令和6年能登半島地震災害義援金	666	73,600,035
令和6年7月25日からの大雨災害義援金	38	202,569
令和6年9月能登半島大雨災害義援金	232	25,595,398
令和6年沖縄県北部豪雨災害義援金	12	76,249
令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金	26	945,940

救援金受付状況

名称	件数（件）	金額(円)
海外無指定救援金	1	5,000
アフガニスタン人道危機救援金	1	1,767
ウクライナ人道危機救援金	96	1,344,181
イスラエル・ガザ人道危機救援金	26	152,379
2024年台湾東部沖地震救援金	61	1,832,503
レバノン人道危機救援金	9	31,818

●臨時救護の実施

不特定多数の人々が集う公共的なイベント・スポーツ大会等において、参加者の安全を図るため、医師・看護師・主事で編成した救護班やボランティアを以下のとおり派遣しました。

実施日	行事名	派遣者数（人）	取扱傷病者数（人）
令和6年4月21日	津山加茂郷フルマラソン全国大会	12	4
令和6年8月25日	倉敷ジュニアトライアスロン大会	11	16
令和6年11月10日	おかやまマラソン	29	37
令和7年2月15日	西大寺会陽	29	8
令和7年2月23日	そうじゃ吉備路マラソン	13	21
計		94	86

●防災教育事業「赤十字防災セミナー」の開催

地域ニーズを踏まえたカリキュラムを実施することで、「自助」「共助」の意識を高め、地域の災害対応力を向上させることを目的に指導者を派遣しました。

カリキュラム名	内容	件数(件)
災害への備え（講義）	地震・大雨災害などの想定被害を知り、平時の備えの重要性を理解する	30
災害エスノグラフィー	被災者の経験談を通じて、災害を追体験することで被災の具体的なイメージを理解する	4
災害図上訓練（DIG）	地域の防災マップを作成することで、防災上の資源や危険箇所を把握・理解し、個人や地域での防災対策につなげる	5
家具安全対策ゲーム（KAG）	自宅の平面図を描き、地震で起こる被害や家具の安全対策の必要性を把握・理解し、身を守る方法を検討する	4
ひなんじょ　たいけん	大地震時に避難所に起こる問題等をカードゲームを通じて理解し、自助・共助の力を高める	7
計		50

2

国際活動

赤十字では、国際・国内紛争による被災者への医療や食料等の救援を実施するほか、ジュネーブ条約に基づいて、戦闘に直接参加していない負傷兵や一般市民の保護にあたっています。

また、自然災害等によって被害を受けた被災地への復興支援や防災を通じた地域の基盤づくり等に取り組んでいます。

令和6年度において岡山県支部は、以下の事業を実施しました。

●インドネシア防災強化事業

災害多発国であるインドネシアに対し、災害対応能力の向上や、防災教育に精通する教職員、防災ボランティアの育成のために職員1名を現地に派遣するとともに、引き続き資金的援助を行いました。



●モンゴル保健支援事業

多発する気象災害に加えて、経済不況による貧困、へき地での医療サービスの不足などにより、人々のいのちと健康が脅かされているモンゴルにおいて、救急法及びこころのケアの体制づくりに協力し、人々の健康増進に取り組むための資金的援助を行いました。

●アジア・大洋州給水・衛生災害対応キット整備事業

中国・四国各県支部と協働で、アジア・大洋州で洪水やサイクロンなどの災害に頻繁に見舞われる国や地域に対し、安全な飲み水の確保や清潔な簡易トイレの設置など、衛生環境を整備するための資金的援助を行いました。

また、本事業における評価を行うことを目的として、職員1名をバングラデシュに派遣し、整備状況などを確認しました。



●「NHK 海外たすけあい」キャンペーン

世界各地で紛争や自然災害、感染症などに苦しむ人々のため、令和6年12月1日から25日の期間でNHKと共同で募金キャンペーンを実施しました。

名称	件数(件)	金額(円)
令和6年度（第42回）「NHK 海外たすけあい」	766	7,836,325

3

医療事業

岡山赤十字病院（500床）、岡山赤十字玉野病院（83床）、岡山赤十字老人保健施設玉野マリンホーム（100床）において、高度急性期医療をはじめ、慢性期医療から回復期まで特色ある医療事業を展開しています。

各施設においては、公的医療機関として、また地域の安定的な医療体制を確保するため、地域医療の連携推進を図りながら、地域からの信頼に応えた安心・安全な医療を提供しました。

●岡山赤十字病院

県南東部医療圏の中核病院として、救命救急センターとしての救急医療、地域がん診療連携拠点病院等の先進医療、基幹災害拠点病院としての災害医療・救護など、公的医療機関としての役割を担いました。

国の推進事業による病院DXの働きかけにより、マイナ保険証や電子処方箋の導入を積極的に行いました。

また、当院は厚生労働省が定める「DPC 対象病院」であり「定額算定方式」がとられています。患者さんにとっては、出来高払い方式の病院よりも医療費が安くなる、というメリットがあります。「DPC 対象病院群」においては、平成28年度から「DPC 標準病院群」に区分されていましたが、8年ぶりに、大学病院に準じたより高い医療的な技術機能を有する病院として「DPC 特定病院群」に返り咲き、県内4施設のひとつに認定されました。

令和6年度の患者数は昨年度と比較して入院は1%増、外来は3.8%減となりました。

患者数(人間ドック・健診を除く)

入院	延患者数(人)	140,362
	1日平均(人)	384.6
外来	延患者数(人)	258,363
	1日平均(人)	1,063.2



●岡山赤十字玉野病院

内科・リハビリテーション科・皮膚科・整形外科に加え、専門外来として呼吸器内科、循環器内科、糖尿病内科、肝臓内科、脳卒中科、心臓血管外科において診療を行い、岡山赤十字病院との連携により急性期及び慢性期の一貫性のある医療を提供しています。

令和6年11月から、要介護になる前に適切な支援や指導を行うフレイル外来を開設したほか、糖尿病週間イベントを院内で実施し、たくさんの方に参加していただくなど、地元の方々により身近に感じてもらうための活動にも注力しました。

近隣の医療機関や介護施設からの紹介による入院のさらなる推進を図ると同時に終末期医療を希望する患者の受け入れ、併設する老人保健施設との協力による在宅復帰を目的とした在宅医療の推進にも努めました。

患者数（人間ドック・健診を除く）

入院	患 者 数（人）	24,896
	1 日平均（人）	68.2
外来	患 者 数（人）	17,334
	1 日平均（人）	71.6



●岡山赤十字老人保健施設玉野マリンホーム

病状が安定した高齢者等の心身の自立を支援し、介護機能を持った包括的ケアサービスを提供する役割を担い、高齢者等の在宅復帰を目指しています。

このため、ショートステイや通所リハビリテーションを提供し、併設する居宅介護事業所での介護保険制度におけるケアマネジメントにより、家族・介護者の介護負担軽減に努め、利用者のニーズに沿ったサービス提供を行いました。

また、令和4年度より在宅復帰超強化型施設へと移行しており、令和6年度も引き続き継続しています。

利用者数

入所	入所者数（人）	31,373
	1 日平均（人）	85.9
通所	通所者数（人）	5,424
	1 日平均（人）	22.4



●「赤十字健康講座」等の開催

広く県民の健康維持・増進を図ることを目的に、赤十字各施設が連携し、医師や看護師等が岡山赤十字病院で講演を行う「赤十字健康講座」を開催しており、令和6年度はコロナ禍から4年ぶりに再開しました。

なお、I型糖尿病の児童・生徒に低血糖症状等が出た際に教職員が適切に対処できることを目的とした「小児のための研修」を岡山赤十字病院と岡山県教育委員会等が連携し、集合とオンラインのハイブリッド形式で開催しました。



4

看護師養成事業

○岡山赤十字看護専門学校

赤十字の理念である人道を基調とし、豊かな人間性を育み、保健・医療・福祉の分野をはじめ、災害等救護の現場で活躍できる看護実践者を育成することを教育理念としています。

また、社会における看護ニーズの変化に対応するため、厚生労働省によりガイドラインが示されました。当校においても令和4年度より新カリキュラムによる看護教育を行っており、ICTの活用やコミュニケーション力を強化するとともに、臨床判断を行うための基礎的能力を養うべく学生を支援しています。



学生数

令和7年3月31日現在

1年生（人）	27
2年生（人）	36
3年生（人）	32
計（人）	95

5

血液事業

岡山県赤十字血液センターでは、血液を提供していただける方を募集し、その血液を採取し、血液製剤として、治療を必要とする患者のため、医療機関に供給する血液事業を展開しています。採血業者及び製造販売業者としての責務である血液製剤の安全性の確保・向上及び安定供給の確保並びに献血者の保護に努め、確実な血液事業の推進に取り組んでいます。

令和6年度における岡山県の献血者数は、74,542人（対前年度比95.3%）、前年度に比べ3,658人減少しました。

献血種類別では、400mL 献血者が50,288人（対前年度比94.0%）、200mL 献血者が507人（対前年度比98.4%）、成分献血者が23,747人（対前年度比98.1%）でした。

献血者の安定確保のため、献血ルームや献血バスでは、「献血アプリ・ラブラッド」への登録を呼び掛けています。アプリ上で献血予約や事前問診できるため、献血者にとって待ち時間の短縮に繋がるメリットがあります。また、血液センターにおいても献血者数の見込み数を把握できることにより、不足数の予測が可能となります。

性別・献血種類別献血者数

献血種類	区分			割合 (%)
	男	女	計	
200mL 献血	148	359	507	0.7
400mL 献血	37,526	12,762	50,288	67.5
血漿成分献血	9,824	5,648	15,472	20.7
血小板成分献血	7,909	366	8,275	11.1
計	55,407	19,135	74,542	100.0

年齢別献血者数

年齢	10代	20代	30代	40代	50代以上	計
献血者数 (人)	3,117	9,961	9,727	17,141	34,596	74,542
割 合 (%)	4.2	13.4	13.0	23.0	46.4	100.0

●献血者確保対策事業

- 普及啓発活動
- 広報活動
- 献血推進組織の育成
- 若年層献血推進対策
- 献血ルームの活性化



●その他の事業

- 骨髓ドナー登録の推進
- 医療機関との連携強化
- 特殊製剤国内自給向上対策事業



6

救急法等の講習

日常生活での事故防止や手当てなど、「健康」「安全」に関する知識・技術を普及するため、地域や学校、企業・団体などに指導員を派遣しました。また、指導体制を強化することを目的に指導員スキルアップ研修を実施するとともに、指導員養成講習を開催しました。

○救急法

病気やけがや災害から自分自身を守り、けが人や急病人を正しく救助し、医師または救急隊などに引き継ぐまでの知識や技術を普及する講習です。

急病人やけが人の発生に備え、胸骨圧迫の方法やAEDの使い方を学ぶ一次救命処置などの講習を実施しました。

また、新たに13名の指導員を養成しました。



種別		実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
救急法	基礎講習	36	826	826
	救急員養成講習	12	271	262
	短期講習	202	6,523	
計		250	7,620	1,088

○水上安全法

水を活用して健康の増進を図り、水の事故からいのちを守るための知識や技術を普及する講習です。

思いがけない事故に遭った際、適切に対応できるよう、児童・生徒を中心に行いました。

また、新たに7名の指導員を養成しました。



種別		実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
水上安全法	救助員Ⅰ養成講習	1	23	22
	救助員Ⅱ養成講習	1	12	12
	短期講習	4	99	
計		6	134	34

●幼児安全法

子どものいのちを守るために必要な接し方や、事故の予防、手当・看病の方法を普及する講習です。

少子化の時代に子どもを社会全体で育むうえで、万が一の事故に備えるため、幼稚園や保育園職員、家族などを対象に乳幼児の一次救命処置等の講習を実施しました。



種別		実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
幼児安全法	支援員養成講習	2	51	50
	短期講習	69	1,755	
計		71	1,806	50

●健康生活支援講習

住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、健康の維持・増進と高齢期の自立を促す方法を普及する講習です。

高齢化が進む中でフレイルが社会問題となっており、体操動画を活用したフレイル予防等の健康増進を図る短期講習や支援員養成講習を開催しました。



種別		実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
健康生活支援講習	支援員養成講習	3	42	42
	短期講習	76	2,797	
計		79	2,839	42

●健康生活支援講習を柱とした地域包括ケアの推進

少子高齢社会が進む中、子どもから高齢者まで誰もが安心して幸せに暮らすために、「自助」意識の醸成と地域で支え合う「互助」など、人と人とのつながる地域づくりが課題となっています。

地域住民一人ひとりが、生きがいを感じられる社会を共に創っていくことを目指して、いのちと健康、尊厳を守る赤十字講習等を活用し、ボランティアの協力を得ながら他団体との連携・協働の強化を図りました。

昨年度に引き続き、フレイル予防の一つとして、「クロス体操」動画を用いて地域の方の健康維持・増進に努めるとともに、脳体力トレーナー「CogEvo（コグエボ）」を活用し、認知機能を見える化することで異常の早期発見につなげられるような取り組みを実施しました。



7

赤十字ボランティア

赤十字ボランティアは、会員の募集、救護活動、献血の推進等さまざまな赤十字事業の支援はもとより、地域のニーズに応じた社会活動を行っており、行政が推進する地域福祉の一端を担っています。

●防災ボランティアの体制整備

長期にわたる幅広い災害ニーズに対応し、被災者に寄り添った支援ができるよう、「災害支援ネットワークおかやま」「岡山県災害福祉支援ネットワーク推進会議」などの防災関連団体との定期的なミーティングに参加することで連携を深めるとともに、総社市社会福祉協議会が設置する「ボランティアセンター運営委員会」に参画し、協働を図りました。

また、内閣府がモデル研修として実施した「避難生活支援リーダー／サポーター研修」に参加し、他業種・多職種と災害時の支援に関する課題等について共有しました。

●赤十字奉仕団の育成・活動促進

地域に根ざした活動を行う赤十字奉仕団員を対象に、奉仕団基礎研修会を開催しました。奉仕団についての理解を深めるとともに、赤十字が普及・推進する講習や赤十字防災セミナーを体験し、今後の奉仕団活動のきっかけづくりや団員同士の連携強化を図りました。

種別	活動内容
地域赤十字奉仕団	<ul style="list-style-type: none">● 地域における活動資金の募集● 地域における防災訓練やイベントへの参加● 地域福祉等の活動
青年赤十字奉仕団	<ul style="list-style-type: none">● 街頭募金活動● 病院における患者支援活動● 献血推進活動
特殊赤十字奉仕団	<ul style="list-style-type: none">● 災害時の救護活動支援● 視覚障がい者支援のための点訳教室● 水辺の安全啓発活動



8

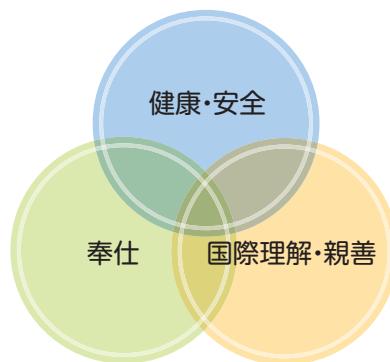
青少年赤十字（JRC）

青少年赤十字（JRC）は、子どもたちが「人のいのちと健康、尊厳」を大切にする人道的価値観を身につけ行動できるようになることを目指して、教育現場において教員等が指導者となり活動を展開する事業です。

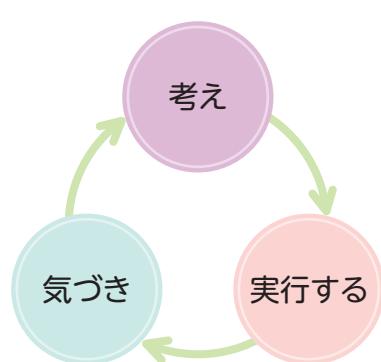
その活動は、「気づき・考え・実行する」という自主性に基づき、世界の青少年赤十字に共通している次の3つの実践目標を掲げて青少年の発達段階や各学校の取り組みに合わせた活動を展開しています。

加盟校からの要望による防災学習や登録式などを実施したほか、県内の高校生メンバーが参集して行事を行いました。

青少年赤十字の実践目標



青少年赤十字の態度目標



青少年赤十字の加盟状況

種別	加盟校 (園)数	児童・生徒数(人)			委員会・クラブ等の グループ数
		男	女	計	
幼稚園	1	75	85	160	0
保育所(園)	12	574	579	1,153	1
認定こども園	5	147	154	301	0
小学校	12	1,692	1,581	3,273	0
中学校	14	1,858	1,916	3,774	4
高等学校	26	2,533	2,149	4,682	17
中等教育学校	1	11	11	22	1
特別支援学校	2	129	58	187	0
計	73	7,019	6,533	13,552	23



広報活動

赤十字の理念や活動内容、活動資金の使途について一人でも多くの方々にご理解いただけるよう、広報活動を展開しました。

赤十字の活動を広く伝えるため、テレビ、新聞などに取り上げられるよう報道機関に対し積極的にプレスリリースを発信するとともに、若年層に向けた情報発信を推進するためSNSの活用にも注力しました。

また、県下のあらゆる地域における広報活動で活用いただけるよう、地区分区内に對し活動紹介パネルの貸し出しを行いました。

●広報資材

- 広報紙「赤十字おかやま」の発行
- 地区分区内、支援者等への「赤十字NEWS」の配布
- 県下全域でのポスター掲示
- 会員加入促進のためのリーフレット、チラシの配布
- 事業計画書・事業報告書の配布
- 活動紹介パネルの貸し出し



●メディア広報

- CM放送（テレビ、ケーブルテレビ、ラジオ）
- プレスリリースの発信による取材・報道
- 有功会員の協賛による新聞広告の掲載
- 新聞への記事広告の掲載
- SNS（Facebook、Instagram、YouTube）を活用した情報発信

●広報イベント

- 市町村や団体等の主催イベントへの赤十字ブースの出展（緊急車両やパネルの展示、キッズ救護員体験コーナーの設置など）
- 地域のシンボルである建造物を世界赤十字デーに合わせライトアップする「レッドライトアッププロジェクト」の実施



●岡山赤十字フェスティバル

医療や看護、介護、防災など赤十字の特色を活かし、赤十字に親しんでいただけるよう、「岡山赤十字フェスティバル」を5年ぶりに開催しました。

岡山赤十字病院を会場に開催し、1,600人を超える方々にお越しいただきました。

会員の加入促進と活動資金の募集

岡山県支部が行う活動は、赤十字会員及び赤十字活動に賛同する方々からお寄せいただく活動資金により支えられています。

赤十字の各種活動を進めるためには、より多くの方々のご理解を得て赤十字会員の増強や活動資金の安定的な確保に努める必要があります。

5月には、「赤十字運動月間」として赤十字会員への加入勧奨を行っています。

また、遺贈・相続財産による寄付の推進やクレジットカード決済等による活動資金募集に努めたほか、ダイレクトメールの協力依頼を強化しました。

●活動資金の件数及び実績額

令和7年3月31日現在

地区分区	件数(件)	実績額(円)
岡山市地区本部	46,392	34,846,854
倉敷市地区	45,456	33,134,530
津山市地区	8,820	8,295,950
玉野市地区	8,410	6,225,500
笠岡市地区	9,676	6,907,500
井原市地区	8,242	5,086,950
総社市地区	10,086	8,800,900
高梁市地区	5,894	4,747,800
新見市地区	3,308	2,975,200
備前市地区	3,494	2,940,500
瀬戸内市地区	731	1,491,189
赤磐市地区	4,801	4,099,645
真庭市地区	7,646	6,027,600
美作市地区	4,967	3,949,300
浅口市地区	4,994	3,991,180
和気町分区	2,865	2,189,542
早島町分区	871	564,450
里庄町分区	30	1,295,000
矢掛町分区	3,483	3,233,050
新庄村分区	161	136,500
鏡野町分区	1,804	1,686,000
勝央町分区	1,767	1,636,500
奈義町分区	949	1,268,800
西粟倉村分区	351	312,000
久米南町分区	956	762,500
美咲町分区	2,411	1,725,000
吉備中央町分区	1,273	1,104,300
支部扱い	5,676	73,260,742
計	195,514	222,694,982

*支部扱い：企業訪問・ダイレクトメール・寄付つき自販機・クレジットカード決済等

●全国赤十字大会

令和6年5月15日に東京都渋谷区の明治神宮会館において「全国赤十字大会」が開催され、岡山県より27人が参画しました。

●日本赤十字社による表彰

多額の活動資金にご協力いただいた方々や赤十字事業への功労者に対する、日本赤十字社による表彰制度があります。

銀色有功章、金色有功章、社長感謝状については、令和6年10月2日に岡山県支部で開催した「日本赤十字社有功章等伝達式」において、豊田事務局長から受章者に伝達を行いました。

令和6年度の受章者数は以下のとおりです。

種別及び受章者数

種別	受章者数
支部長表彰状	個人（人） 31
	法人（社） 23
支部長感謝状	個人（人） 3
	法人（社） 6
銀色有功章	個人（人） 11
	法人（社） 18
金色有功章	個人（人） 9
	法人（社） 29
社長感謝状	個人（人） 6
	法人（社） 11

●国による表彰

多額の活動資金にご協力いただいた方々に対し、国による表彰の伝達を行いました。令和6年度の受章者数は以下のとおりです。

種別及び受章者数

種別	受章者数
厚生労働大臣感謝状	個人（人） 3
	法人（社） 1
紺綏褒章	個人（人） 1
	法人（社） 0

●遺贈・相続財産による寄付の推進

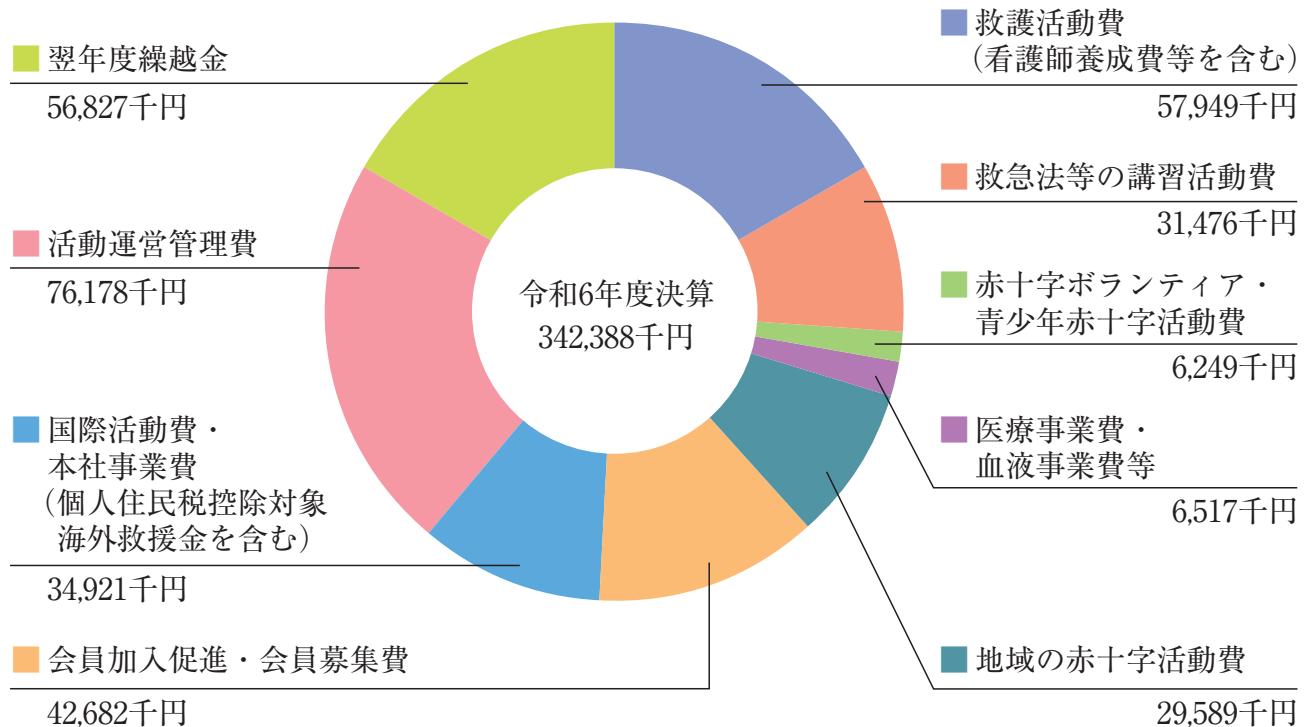
令和7年1月11日に「赤十字終活セミナー」を開催しました。本セミナーでは、近年関心が高まっている「遺贈」や「相続財産による寄付」について学ぶ機会として実施し、定員を上回る多くの方々にご参加いただきました。

また、日本赤十字社が「遺贈」や「相続財産による寄付」の受け入れ団体であることを広く周知するため、山陽新聞に4回、広告を掲載しました。

令和6年度一般会計歳入歳出決算概算書

(単位：千円)

科 目	決算額
活動資金（会費および寄付金）収入	222,695
個人住民税控除対象海外救援金	0
本社交付金収入	3,174
資金繰り入金収入等	7,009
各種講習教本代等雑収入	2,137
前年度繰越金	107,373
歳 入 計	342,388
救護活動費（看護師養成費等を含む）	57,949
救急法等の講習活動費	31,476
赤十字ボランティア・青少年赤十字活動費	6,249
医療事業費・血液事業費等	6,517
地域の赤十字活動費	29,589
会員加入促進・会員募集費	42,682
国際活動費・本社事業費（個人住民税控除対象海外救援金を含む）	34,921
活動運営管理費	76,178
翌年度繰越金	56,827
歳 出 計	342,388



名簿

日本赤十字社役員名簿（岡山県支部選出）

令和7年3月31日現在

役職名	氏名	公職名	就任年月日
常任理事	末長 範彦	岡山トヨペット株式会社 代表取締役会長	令和6年4月1日
理事	末長 範彦	岡山トヨペット株式会社 代表取締役会長	令和6年4月1日
代議員	末長 範彦	岡山トヨペット株式会社 代表取締役会長	平成18年3月1日
代議員	松田 久	岡山商工会議所 会頭 両備ホールディングス株式会社 取締役副会長	平成25年2月14日
代議員	松山 正春	岡山県医師会 会長	平成31年2月14日
代議員	加藤 貞則	株式会社中国銀行 取締役頭取	令和6年6月27日
代議員	晝田 真三	岡山県中小企業団体中央会 会長	令和6年10月16日

日本赤十字社岡山県支部役員名簿

令和7年3月31日現在

役職名	氏名	公職名	就任年月日
支部長	伊原木 隆太	岡山県知事	平成24年11月12日
副支部長	晝田 真三	岡山県中小企業団体中央会 会長	令和6年10月16日
副支部長	栗山 康彦	岡山県市長会 会長・浅口市長	令和7年1月24日
監査委員	平松 卓雄	前岡山県社会福祉協議会 常務理事	平成30年10月20日
監査委員	山本 哲也	岡山県農業信用基金協会 専務理事	令和7年2月4日
参与	梅木 和宣	岡山県保健医療部長	令和5年8月1日
参与	千田 元久	岡山県保健医療部次長	令和6年4月1日

日本赤十字社岡山県支部評議員名簿

令和7年3月31日現在

No.	氏名	選出地区	公職名	就任年月日
1	大森 雅夫	岡山市	岡山市長	平成25年10月9日
2	塩見 横子	✓	岡山市連合婦人会 会長	平成25年4月1日
3	内田 通子	✓	岡山市社会福祉協議会 会長	平成22年10月26日
4	藤原 繁利	✓	岡山市社会福祉協議会 副会長	平成29年8月14日
5	伊東 香織	倉敷市	倉敷市長	平成20年5月19日
6	中桐 泰	✓	倉敷市社会福祉協議会 会長	平成29年4月1日
7	内田 浩二	✓	倉敷市社会福祉協議会 副会長	令和2年1月18日
8	武則 啓子	✓	倉敷市婦人協議会 会長	令和5年9月8日
9	谷口 圭三	津山市	津山市長	平成30年3月12日
10	柴田 義朗	玉野市	玉野市長	令和3年11月22日
11	栗尾 典子	笠岡市	笠岡市長	令和6年4月24日
12	大舌 熱	井原市	井原市長	平成30年9月16日
13	片岡 聰一	総社市	総社市長	平成19年12月4日
14	石田 芳生	高梁市	高梁市長	令和6年10月24日
15	石田 實	新見市	新見市長	令和6年12月3日
16	吉村 武司	備前市	備前市長	令和3年4月24日
17	武久 顕也	瀬戸内市	瀬戸内市長	平成21年7月21日
18	友實 武則	赤磐市	赤磐市長	平成25年4月17日
19	太田 昇	真庭市	真庭市長	平成25年4月24日
20	萩原 誠司	美作市	美作市長	平成26年3月30日
21	栗山 康彦	浅口市	浅口市長	平成22年4月23日
22	太田 啓輔	和気町	和気町長	令和4年4月16日
23	佐藤 博文	早島町	早島町長	令和5年10月11日
24	加藤 泰久	里庄町	里庄町長	平成30年2月5日
25	山岡 敦	矢掛町	矢掛町長	令和4年5月20日
26	小倉 博俊	新庄村	新庄村長	平成26年9月8日
27	山崎 親男	鏡野町	鏡野町長	平成19年2月14日
28	水嶋 淳治	勝央町	勝央町長	平成23年9月12日
29	奥 正親	奈義町	奈義町長	平成31年2月15日
30	青木 秀樹	西粟倉村	西粟倉村長	平成23年9月12日
31	片山 篤	久米南町	久米南町長	平成28年7月24日
32	青野 高陽	美咲町	美咲町長	平成30年12月9日
33	山本 雅則	吉備中央町	吉備中央町長	平成24年10月24日
34	松田 久	支部長	岡山商工会議所 会頭・両備ホールディングス株式会社 取締役副会長	平成25年2月14日
35	松田 正己	✓	株式会社山陽新聞社 代表取締役会長	平成25年2月14日
36	野崎 泰彦	✓	岡山県経営者協会 会長	令和4年2月14日
37	物部 一宏	✓	R S K 山陽放送株式会社 代表取締役社長	令和6年6月27日
38	三宅 啓一	✓	株式会社大本組 代表取締役社長	令和3年4月1日
39	田村 正敏	✓	岡山県商工会連合会 会長	令和3年5月30日
40	大西 泰子	✓	岡山県婦人協議会 会長	平成30年5月28日
41	梶原 美砂子	✓	岡山県商工会議所女性会連合会 特別顧問	平成10年2月14日

地域赤十字奉仕団名簿

令和7年3月31日現在

No.	奉仕団名	結成年月日	委員長氏名	就任年月日	分団数	班数	団員数(人)		
							男	女	計
1	岡山市赤十字奉仕団	昭和21年12月6日	塙見 横子	平成25年4月1日	33	424	0	6,280	6,280
2	岡山市御津赤十字奉仕団	昭和28年5月1日	齊藤 節子	令和3年4月1日	1	6	0	139	139
3	倉敷市倉敷赤十字奉仕団	昭和30年4月1日	武則 啓子	令和4年5月1日	5	15	0	347	347
4	倉敷市児島赤十字奉仕団	平成11年4月1日	中村 純子	平成31年4月1日	0	6	0	50	50
5	倉敷市玉島赤十字奉仕団	昭和31年4月1日	瀧澤 英子	平成19年4月1日	1	0	0	20	20
6	津山市赤十字奉仕団	昭和39年5月1日	市村 道恵	令和4年6月30日	0	0	0	26	26
7	玉野市赤十字奉仕団	昭和32年4月1日	平木 由美	令和4年2月16日	0	0	11	5	16
8	笠岡市赤十字奉仕団	昭和42年4月1日	吉岡 祥子	平成27年4月25日	4	4	0	151	151
9	井原市赤十字奉仕団	昭和32年1月1日	上野 寛	令和4年4月20日	0	13	687	144	831
10	総社市赤十字奉仕団	昭和32年4月10日	山口 久子	平成22年6月18日	9	0	0	368	368
11	高梁市赤十字奉仕団	昭和30年4月1日	田村 順子	平成30年4月27日	3	0	0	238	238
12	高梁市成羽町赤十字奉仕団	昭和38年9月6日	渡邊 ありさ	令和6年4月1日	1	4	0	104	104
13	高梁市川上町赤十字奉仕団	昭和44年10月6日	難波 眞琴	令和6年4月8日	0	0	8	87	95
14	新見市赤十字奉仕団	昭和31年12月1日	立花 久恵	令和6年4月1日	0	0	0	29	29
15	新見市大佐赤十字奉仕団	平成14年12月17日	平田 国子	平成19年4月26日	0	0	7	25	32
16	新見市神郷赤十字奉仕団	平成19年4月1日	杉本 千恵子	令和2年4月1日	1	1	1	113	114
17	新見市哲多町赤十字奉仕団	昭和51年2月20日	中山 博文	令和6年5月22日	1	3	7	41	48
18	新見市哲西町赤十字奉仕団	平成14年4月22日	浅井 郁三	令和3年11月1日	0	0	28	50	78
19	備前市赤十字奉仕団	平成12年7月12日	立川 涼子	平成31年4月1日	7	0	0	133	133
20	赤磐市赤坂赤十字奉仕団	昭和39年4月1日	小西 清美	平成24年4月1日	1	1	0	80	80
21	美作市作東赤十字奉仕団	昭和39年4月1日	山本 文子	平成15年4月1日	1	2	0	58	58
22	浅口市金光赤十字奉仕団	昭和38年5月6日	鍋谷 理恵子	令和6年4月1日	12	21	3	101	104
23	浅口市鴨方赤十字奉仕団	昭和31年6月1日	筒井 由紀子	平成28年4月1日	0	0	0	117	117
24	和気町赤十字奉仕団	昭和46年12月20日	小金谷 香代子	平成26年4月1日	1	1	0	30	30
25	早島町赤十字奉仕団	平成14年1月8日	河田 智子	平成18年4月1日	1	0	0	52	52
26	里庄町赤十字奉仕団	昭和28年4月10日	山田 恵津子	平成20年4月1日	0	14	0	664	664
27	勝央町赤十字奉仕団	昭和32年9月1日	檜尾 富佐子	令和4年12月1日	1	1	17	17	34
28	美咲町赤十字奉仕団	平成17年3月22日	大西 泰子	平成17年3月22日	1	3	0	370	370
29	久米南町赤十字奉仕団	昭和59年4月1日	木多 敏江	令和6年4月1日	2	2	0	99	99
合計					86	521	769	9,938	10,707

青年赤十字奉仕団名簿

令和7年3月31日現在

No.	奉仕団名	結成年月日	委員長氏名	就任年月日	団員数(人)		
					男	女	計
1	岡山赤十字看護専門学校学生奉仕団	昭和46年2月16日	吉沢 果子	令和6年4月1日	4	94	98
2	川崎医療福祉大学学生赤十字奉仕団 R.C.Y.Will	平成3年12月15日	安東 晃里	令和6年4月1日	18	102	120
合計					22	196	218

特殊赤十字奉仕団名簿

令和7年3月31日現在

No.	奉仕団名	結成年月日	委員長氏名	就任年月日	団員数(人)		
					男	女	計
1	岡山県赤十字点訳奉仕団	昭和42年7月15日	宇津木 順一郎	昭和46年7月15日	4	14	18
2	岡山ライフセービング赤十字奉仕団	平成11年6月8日	熊澤 一彦	平成30年5月19日	38	8	46
3	岡山県青少年赤十字賛助奉仕団	平成16年4月20日	難波 宏明	令和3年4月1日	30	4	34
4	岡山赤十字災害支援奉仕団	令和2年5月8日	山本 松美	令和2年5月8日	53	23	76
合計					125	49	174

岡山県赤十字有功会役員名簿

令和7年3月31日現在

役職名	氏名	公職名
名誉会長	池田 厚子	
会長	末長 範彦	岡山トヨペット株式会社 代表取締役会長
副会長	松田 久	両備ホールディングス株式会社 取締役副会長
副会長	永山 久夫	岡山プラザホテル株式会社 代表取締役会長
副会長	恵谷 龍二	株式会社ケイコーポレーション 代表取締役社長
会計監査	平田 啓子	西日本株式会社 代表取締役
会計監査	平松 晃弘	平松エンタープライズ株式会社 代表取締役社長
理事	全本 親民	株式会社ソフィア 代表取締役
理事	高木 晶悟	株式会社トマト銀行 取締役社長
理事	千原 行喜	岡山県パチンコ・パチスロ業協同組合 理事長
理事	高田 美紀子	岡山商工会議所女性会 会長
理事	尾崎 茂	菅公学生服株式会社 代表取締役社長
理事	三宅 啓一	株式会社大本組 代表取締役社長
理事	山本 総一	株式会社中国銀行 取締役常務執行役員
理事	物部 一宏	R S K 山陽放送株式会社 代表取締役社長
理事	久山 哲哉	岡山県貨物運送株式会社 取締役総務部長
顧問	岡崎 彬	岡山ガス株式会社 代表取締役会長
顧問	大原 謙一郎	公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 理事・会長
顧問	松田 正己	株式会社山陽新聞社 代表取締役会長
顧問	江國 成基	株式会社天満屋 常勤監査役
幹事	豊田 和典	日本赤十字社岡山県支部 事務局長



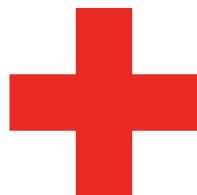
 Facebook



 Instagram



 YouTube



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

岡山県支部

〒700-0823 岡山市北区丸の内二丁目7番20号 TEL 086-221-9595 FAX 086-221-9599 <https://www.jrc.or.jp/chapter/okayama/>